

七月鹿ノ台教室誌上句会 優秀句

お題「出す」(連記) 山神春代選

もういいかい緩和政策徐々に出す

来年で最後にしよう年賀状

顔を出し所構わず口も出す

太い足さし出す元氣強い骨

きらわれ者口は出しても金出さず

少しでもだけ出口見えたかコロナ戦

とんと出て来ぬ政官の責任者

自肅とけ出たら春から夏だった

出し渋りしてさい銭に錆がふく

応援席思い届けて声出さぬ

財布出すふりご馳走さまを先に言う

割り勘の出す引つ込めるタイムミング

温泉をほり当てたのに25度

公文書黒塗り以外すべて出す

こんなにも素敵な笑顔出し惜しみ

秀 支払いはあなたにいたくのは私

軸 おもてなし心を込めて出す料理

お題「酒」 前田幸男選

難波から生駒ビールで旅気分

百薬の長だと知った迎え酒

傷疼き酒に紛らす嫉妬心

ひとり行く鈍行の旅つれば酒

酒席では人の本性見え隠れ

しみわたる断酒の後のコップ酒

ほろ酔いで盃を置く通の道

肩書きを外して飲むとこわい酒

浮かぶ者沈む者あり無礼講

失敗もしたが力も借りた酒

旨そうに妻の手酌で飲むポーズ

秀 今日もまたあれこれしよって縄ノレン

軸 飲んだくれ薬か毒か試し酒

お題「広い」 八木哲子選

広くない家になぜだか人が寄る

太っ腹を見初められてのお嫁入り

広辞苑頼りに探る語彙の海

海に来て広い心を持ち帰る

狭くても暮らしゆつたり断捨離派

お陰様覚えて世間広くなる

肩幅が同じ父子の後を追う

充

英二

えいじ

宏樹

登美

哲子

千楽

乃り子

ちさと

アキラ

義雄

ミノル

正清

幸男

広子

よう子

春代

アキラ

義雄

よう子

えいじ

哲子

登美

千楽

広子

千楽

充

義雄

広子

幸男

春代

広子

義雄

よう子

千楽

アキラ

ミノル

小麦色のはだ海原の追憶

門前に心広くと狭き寺

セルシアンブルー地球の明けをまつ

狭かった我が家気付けば広くなり

秀 ゲルニカにとじこめられて空の青

軸 部下のミスかぶる余裕が人つくる

自由吟 五十嵐千楽選

ハイタツチ届かぬ距離のもどかしさ

年中行事中止中止で時忘れ

コロナ明けいきなり盆といわれても

その話三度目ですとよう言わん

この歳で妻に話せぬ夢を見る

ワテも行く省いた彼女やって来た

堪えてみる何があっても感謝する

困難に出合えば発揮知恵袋

浮き沈みあって人生飽きがこぬ

当確になにはさておき厚化粧

雨音にアジサイ首も背も伸びる

秀 球場がやけに反響むね痛む

軸 試し試され暮れていく老い二人

自由吟 奥村義雄選

朝顔が隣の庭で花咲かす

球場がやけに反響むね痛む

五時起床散歩朝食まだ六時

当確になにはさておき厚化粧

雨音にアジサイ首も背も伸びる

自肅太り今日から散歩遠回り

試し試され暮れていく老い二人

がんばって生きてるからと子のメール

浮き沈みあって人生飽きがこぬ

てのひらに乗ってお釈迦の汗をすう

ハイタツチ届かぬ距離のもどかしさ

秀 ライバルの積木がやけに高くなる

軸 目のうろこ引つ剥がされる裏面記事

ちさと

幸男

正清

英二

正清

哲子

春代

充

乃り子

義雄

登美

えいじ

よう子

アキラ

英二

哲子

哲子

千楽

乃り子

哲子

英二

英二

哲子

哲子

アキラ

千楽

広子

アキラ

正清

春代

よう子

義雄

八月誌上句会 投句々 八月十日 各二句

「医者」広子選 「泳ぐ」義雄選

「えらいこっちゃ」(連記)「英二選

自由吟(共選)乃り子選 よう子選

*メール又は封書 アキラ迄

*書式・用紙は自由、お題・柳号記入を